

3月例会 『ライオン~25年目のただいま~』

2018年度総会は4月26日(木)

例会のお知らせ

■名称/第95回例会『ライオン~25年目のただいま~』

■日時/2018年3月15日(木)

①PM2:00~、②PM4:20~、③PM6:40~

■場所/加古川総合文化センター大会議室(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川ランプ北東へ600m)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■タイトル/ライオン~25年目のただいま~

■監督/ガス・デイヴィス

■出演/デブ・パテル、ルーニー・マラー、ニコール・キッドマン、デビッド・ウェンハム、サニー・パワー

■データ/2016年、オーストラリア、1時間59分

■ジャンル/ヒューマンドラマ

美しい自然のなかで展開される青年教師の奮闘ドラマ

■作品・ストーリー/ インドで迷子になった5歳の少年が、25年後にGoogle Earthで故郷を探し出したという実話を、「スラムドッグ\$ミリオネア」のデブ・パテル、「キャロル」のルーニー・マラー、ニコール・キッドマン

ら豪華キャスト共演で映画化したヒューマンドラマ。

オーストラリアで幸せに暮らす青年サルー。しかし、彼には隠された驚愕の過去があった。インドで生まれた彼は5歳の時に迷子になり、以来、家族と生き別れたままオーストラリアへ養子にだされたのだ。成人し、自分が幸せな生活を送れば送るほど募る、インドの家族への想い。サルーが抱えた心の大きな穴は、彼を飲みこまんとするほど増大し、遂に彼は決意する。人生を取り戻し未来への一歩踏み出すため、そして母と兄に、あの日言えなかった“ただいま”を伝えるため、「家を探し出す——」と。(公式ホームページから抜粋)

私の映画KAN

「マルセ太郎のスクリーンのない映画館『生きる』を観て」

1月22日はマルセ太郎の命日でした。新聞で「文忌2018、マルセ太郎をしのぶ会」が神戸であると知り、参加してきました。私がマルセ太郎を初めて知ったのは、2001年に亡くなった時の新聞の追悼特集でした。マルセの芸人魂、在日二世としての思い、頂いた手紙には必ず返事を書くことなどが紹介されていました。その中でも印象に残ったのが、当時7歳だった女性がマルセからもらった手紙を紹介したものです。全てひらがなで「~学校の勉強も頑張ってください。勉強を頑張るのは人に勝つためではありません。大人になった時、弱い立場に立って物事を考えるようになるためです。強いという事は弱いものをいじめることなく、弱い人のために戦える事です。強く優しい人になるために勉強して下さい~」当時、私の長女も7歳で、手紙にして渡した事を思い出します。さて、映画は黒澤明監督の「生きる」でしたが、一人語り芸で、とにかく、私にとっては初めての生マルセ太郎でしたから、ワクワクして観ました。ストーリーは黒澤明の「生きる」なのですが、マルセ太郎の「生きる」になっていました!面白かった!ですが、舞台芸なので、やはり生のマルセに会いたかったとしんみりしました。しかし、しのぶ会ではマルセ太郎の息子、娘さんともお近づきなれて、色々なエピソードも聞かしていただき、私にとっては幸せなしのぶ会でした。(せん)



Google Earthで起こした奇跡——、「英国王のスピーチ」の製作陣が贈る、圧巻の感動実話。

■題名／生きる

■監督／黒澤明

■出演／志村喬、日守新一、田中春男、千秋実、小田切みき

■1952年、日本、143分、ドラマ、ヒューマン、

第4回ベルリン国際映画祭でベルリン市政府特別賞、第26回キネマ旬報ベスト・テン第1位、昭和27年度芸術祭賞

定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2018年度の定例総会を下記のとおり開催いたします。1年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまには、ご出席いただきますようお願いいたします。

記

1 名称 2018年度加古川シネマクラブ定例総会

2 日時 4月20日(木)午後7時から(約1時間)

3 場所 加古川総合文化センター 会議室2

4 内容

(1) 2017年度事業報告に関する事

(2) 2017年度決算に関する事

(3) 2018年度役員の選任に関する事

(4) 2018年度事業計画に関する事

①例会及び特別例会、②明石シネマクラブとの例会参加相互協力の試行継続、③その他の主催事業、共催・協力事業、会議など

(5) 2018年度予算に関する事

5 議案 現在準備中です。事前に確認できるよう

4月12日頃から26日まで加古川シネマクラブのホームページ上に掲載します。

6 参加方法 直接会場にお集まりください。

7 その他 当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することによって、出席する会員に議決等を委任することができます。

前回例会の報告

1月24日の例会では、4人の娘たちが次々とアラブ人、ユダヤ人、中国人、コートジボワール出身の黒人青年と、結婚していくカトリック教徒の両親の姿を、コメディータッチで描いたフランス映画『最高の花婿』を鑑賞しました。

アンケートでも「とてもよかった。人間ってすべてたものでない!」「楽しいひと時を過ごせました」「友人にも同じようなことがありました。フランスのカトリック教徒の家庭にまで、広がってきたのかと思うと楽しい気分です。小さな違いも大きな違いもお互いに認め合えるのがいいです。」などの意見がありました。

参加会員79人、明石シネマクラブからの参加者7人で合計86人の参加者でした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『わたしは、ダニエル・ブレイク』(2016年、イギリス・フランス・ベルギー合作、100分)

■解説／第69回カンヌ国際映画祭で、「麦の穂をゆらす風」に続く2度目の最高賞パルムドールを受賞した、イギリスの巨匠ケン・ローチ監督作品。イギリスの複雑な制度に振り回され、貧困という現実と直面しながらも助け合って生きる人びとの姿が描かれる。イギリス北東部ニューカッスルで大工として働くダニエル・ブレイク。心臓に病を患ったダニエルは、医者から仕事を止められ、国からの援助を受けようとしたが、複雑な制度のため十分な援助を受けることができないでいた。シングルマザーのケイティと2人の子どもの家族を助けたことから、ケイティの家族と絆を深めていくダニエル。しかし、そんなダニエルとケイティたちは、厳しい現実によって追い詰められていく。



■監督／ケン・ローチ

■出演／デイブ・ジョーンズ、ヘイリー・スクワイアーズ

■日時／4月12日(木) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数135人(1月24日現在)